

呼吸器・アレルギー内科（選択）

研修科	呼吸器・アレルギー内科（選択）
責任者	教授 東田 有智
指導医数	8 名
研修期間	8 週間 ～ 12 週間
受入可能人数	6 名
到達目標	<p>a. 病歴聴取および胸部聴診・打診など呼吸器・アレルギー疾患に必要な身体所見の取り方を身につけ、必要な検査を計画できる。</p> <p>b. 胸部画像検査、肺機能検査、血液検査、血液ガスなどの検査所見から異常所見を把握し、鑑別診断と病態を知る。</p> <p>c. 呼吸器・アレルギー疾患の検査・治療に必要な基本的な知識と手技を習得する。</p> <p>d. 呼吸器・アレルギー分野の一般的疾患である肺炎、間質性肺炎、自然気胸、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、気管支喘息、食物アレルギー、睡眠時無呼吸症候群、等の入院症例を経験し、急性期および慢性期の管理ができる。</p> <p>e. 入院患者の退院後の在宅医療・医療介護支援を計画できる。</p>
行動目標	<p>1. 呼吸器・アレルギー領域の症候として臨床研修で経験すべき胸痛、呼吸困難、喀血をはじめ、種々の関連する症候を呈する患者に対して、病歴聴取および身体所見（胸部聴・打診）のとり方を身につける。</p> <p>2. 病歴、身体所見から胸部画像検査、肺機能検査、血液検査、血液ガスなどの必要な検査を計画する。</p> <p>3. 病歴・身体所見・検査所見を総合して、病態把握と臨床推論の方法ならびに適切な初期対応法を習得する。</p> <p>4. 呼吸器・アレルギー疾患の検査・治療に必要な基本的知識と手技を習得する。</p> <p>5. 呼吸器・アレルギー領域の疾病として臨床研修で経験すべき肺炎、肺癌、急性上気道炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）をはじめ、間質性肺炎、胸膜疾患、睡眠時無呼吸、食物アレルギー、ハチアレルギー等の入院・外来症例を経験し、急性期および慢性期の管理ができる。</p> <p>6. 入院患者の退院後の在宅医療・医療介護支援を計画できる。</p>

<p>方略 (LS)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・病棟研修にて、呼吸器・アレルギー領域疾患患者の一般的・全身的な診療とケアを習得する。 ・呼吸器・アレルギー領域は感染症、閉塞性肺疾患・気道系疾患、間質性肺疾患、胸膜疾患、腫瘍性疾患、肺循環障害、呼吸の異常、全身性疾患に伴うものなど、多岐にわたる疾患を扱い、若年者から併発疾患の多い高齢者まで幅広い年代層を診療する。よって、呼吸器・アレルギー領域のみならず、一般診療で頻繁に関わる症候や内科的疾患に対応するための幅広い知識と技能も病棟および外来にて習得する。 ・急性呼吸困難など呼吸器・アレルギー領域における頻度の高い救急の症候と疾患、緊急性の高い病態に対する初期救急対応の研修を行う。これには、気管挿管を含む気道管理及び呼吸管理、急性期の輸液・輸血療法、並びに血行動態管理法についての研修が含まれる。 ・他領域の内科と連携し、一般外来での研修を行う。これには、地域連携医療施設における在宅医療の研修が含まれる。 ・地域連携医療施設における慢性期・回復期病棟での研修を行う。 ・医療・介護・保健・福祉に係わる種々の施設や組織との連携を含む、地域包括ケアの実際について学ぶ。
<p>評価 (EV)</p>	<p>研修医が到達目標を達成しているかどうかは、各分野・診療科のローテーション終了時に、医師及び医師以外の医療職が別添の研修医評価票Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを用いて評価し、評価票は研修管理委員会で保管する。医師以外の医療職には、看護師を含むことが望ましい。</p> <p>上記評価の結果を踏まえて、少なくとも年2回、プログラム責任者・研修管理委員会委員が、研修医に対して形式的評価（フィードバック）を行う。</p> <p>2年間の研修終了時に、研修管理委員会において、研修医評価票Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを勘案して作成される「臨床研修の目標の達成度判定票」を用いて、到達目標の達成状況について評価する。</p> <p>研修医評価票</p> <ol style="list-style-type: none"> Ⅰ. 「A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）」に関する評価 <ol style="list-style-type: none"> A-1. 社会的使命と公衆衛生への寄与 A-2. 利他的な態度 A-3. 人間性の尊重 A-4. 自らを高める姿勢 Ⅱ. 「B. 資質・能力」に関する評価 <ol style="list-style-type: none"> B-1. 医学・医療における倫理性 B-2. 医学知識と問題対応能力 B-3. 診療技能と患者ケア B-4. コミュニケーション能力 B-5. チーム医療の実践 B-6. 医療の質と安全の管理 B-7. 社会における医療の実践 B-8. 科学的探究 B-9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢 Ⅲ. 「C. 基本的診療業務」に関する評価 <ol style="list-style-type: none"> C-1. 一般外来診療 C-2. 病棟診療 C-3. 初期救急対応 C-4. 地域医療
<p>責任者からの一言</p>	<p>超高齢社会および環境の変化などにより、呼吸器疾患ならびにアレルギー疾患患者が著しく増加しています。しかし、日本では呼吸器専門医、アレルギー専門医が非常に少ないのが現状です。その意味から呼吸器・アレルギー内科領域を担当する医師の使命は重大であると考えます。近畿大学病院呼吸器・アレルギー内科では肺炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、間質性肺炎、肺循環障害、睡眠時無呼吸、胸膜疾患、肺癌、ハチアレルギー、食物アレルギーおよび全身性疾患に伴う呼吸器疾患等の診療にあたっています。患者数は、新入院約850名/年、外来患者延約2万4千名/年（喘息患者約2000人、COPD患者約500人、他の呼吸器・アレルギー疾患患者約1000人が通院）であり、これは西日本の大学病院では有数の患者数で、年々増加傾向にあります。西日本、特に関西地区において呼吸器・アレルギーを専門とする病院が少ないため、当科に対する近隣の医療施設からのニーズは非常に大きく、我々はそれに答える使命があると考えています</p> <p>臨床研修医の皆さんには、医師としてのあり方、全人的医療について深く研鑽を積んでいただき、急性、慢性の呼吸器・アレルギー疾患の病態診断、治療法、重症呼吸不全患者の全身管理、抗菌薬の使い方などを習得し、是非とも将来は内科専門医、呼吸器専門医、アレルギー専門医を目指していただき、これからの医療に貢献されるよう期待します。</p>